

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会
《鏡が沖中学校区》

日時：令和 6（2024）年 3 月 30 日（土）午前 10 時～11 時 30 分

会場：枇杷島コミュニティーセンター

司会：皆さんおはようございます。本日はお忙しい中多くの方からご参加いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから柏崎刈羽原子力発電所を再稼働に関する懇談会を始めさせていただきますと思います。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課長の吉原と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の懇談会の終了時間は午前 11 時 30 分を予定しております。会の円滑な進行にご協力くださいますようよろしく願いいたします。会に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中、スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます写真につきましては、広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきます。この点、どうぞご理解いただければというふうに思います。また報道機関による写真撮影等がございますのであわせてご理解願います。それでは最初に市長の桜井雅浩よりご挨拶を申し上げます。

市長：皆さんおはようございます。今ほど吉原課長からご挨拶申し上げましたように、今日は土曜日ということで、本来お休みの日の方も多かったと思われる中、こうやって皆様方からご参集をいただきましてありがとうございます。

今日は地域懇談会、地域懇談会というのは、毎年大体 7 月ごろ、いろいろな問題に渡って地域の方々からお話をお伺いする会合を行っているわけでございますけれども、市内に 11 の中学校がございます。その中学校区を中心に地域間懇談会を開いて 7 月頃行っていたわけでございますけれども、今回はこの原子力発電所の再稼働を巡るということで話題を一つに絞りまして、私自身の原子力発電所を、もしくは再生可能エネルギー、もしくは原子力発電所の再稼働に関わる考え方をご説明申し上げて、皆様からいろいろなご意見を承り、またご質問を承るということで、目的、目標を絞ったご案内をさせていただいたところでございます。今日 11 時半までの予定をしておりますけれども、前半 30 分ほどは私の方でお話をさせていただき、後半の 3 分の 2、1 時間ほどは皆様からのご意見やご質問を承りたいというふうに考えております。皆さんのお手元に 2 枚のプリントがいていると思いますけれども、基本的には○・×・△と書いてあるところをベースにお話しさせていただきますが、最初は色刷りの方、柏崎市(新潟県)2022 年 8 月 24 日というところをお話させていただきます。

まずその前にでございますけれども、皆様ご承知の通りでございますが、私今市長をさせていただいて、2 期目、8 年目に入りました。どこの会場でも申し上げているところでございますが、私は 4 回、市長選挙に出ております。2 回はご承知の通り落選であります。ご本人がともかくも、原子力発電所に反対する立場の方々に応援された候補に 2 回負けておるところでございます。1 回目はいわゆる三つ巴というところでありました。そして 2 回の落選の後、さて私自身どうしようかなと思っているときに、2011 年の東日本大震災が起きました。

私は 34 年前に柏崎に戻り、市議員をさせていただいておったわけでございますが、そのとき以来、原子力発電所を推進すると言ったことは 1 回もございません。私は原子力発電所は容認すべきエネルギーであるというふうに申し上げてまいりました。原子力発電所よりももっと力強く、そして安定的なエネルギーがあるならば、そちらの方にシフトすべきつまり、今の段階では原子力発電所は、私は推進ではなくて、容認すべきエネルギーだろ

うということをして34年前から一貫して申し上げてまいりました。

そして34年前から、環境問題への取り組みも、市議員のときからやらせていただきました。覚えていらっしゃる方いらっしゃるかどうかわかりませんが、34年前、今62になりますが、28歳の時、最初の市議員選挙は空き缶を集めながら、牛乳パックを集めながら自転車に乗って選挙区で行いました。なんで空き缶を集めたのか。資源の分別回収をということで、空き缶、私の選挙事務所、後援会事務所には空き缶が山となっていました。そしてその頃から原子力発電所は、今の段階では容認すべき重要なエネルギーであるということも申し上げてきたところでございます。

そして、前回、つまり4年前の市長選挙においても、原子力発電所の再稼働には意義があるということをはっきり申し上げ、立候補させていただきました。ご承知の通り、対抗された立候補者は原発は反対だったもちろん再稼働も反対だと、いうことをお話されて立候補された方に勝たせていただいたということでございます。そしてこの間、4年余りの間、残念ながら東京電力のトラブル等があり、不始末があり、そして新潟県の3つの検証が行われ、3つの検証が進むまでは、議論をしないと、いう知事の方針も含めて、私自身はおかしな話だなと柏崎は、原発を誘致して以来、1969年、昭和44年以来55年間、賛成の立場の方も、推進の立場の方、反対の立場の方容認の立場の方、55年間、柏崎はずっと議論してきました。

しかし、県は3つの検証が終わるまで議論を始めないということの、この4年間であったわけですね。そして残念ながら、昨年秋、3つの検証が終わって、さあ議論が始まるだろうかと。思いきや、なかなか議論が始まったようにも見えない。

そうした中で、この1月1日に能登半島において地震が起きて、テレビ、新聞等の画像を見ると、一般の住宅が軒並み倒れてしまっていて、道路も寸断されていて、原発大丈夫かと、柏崎も大丈夫か、柏崎も元日の日この鏡中校区の方々も、車に乗って避難された方、津波が来ると避難された方も多かったかもしれません。

これから私が、原子力発電所、また再生可能エネルギー、そして再稼働に対する考え方を申し上げますけれども、後でまた皆様からご意見を賜りたいと思います。座らせていただきたいと思っております。

まず、○・×・△のプリントをご覧ください。ポツが二つあります。原子力発電所は、現時点で重要であり意義がある。しかし、徐々に確実に減らしながら、今柏崎刈羽には7つの原子力発電所がありますけれども、この集中リスクを軽減していくというのが私の原子力発電所に対する基本的な考え方です。

CN電力というのはカーボンニュートラル電力ということです。つまり、電気を作る段階でCO2を出さないという意味で、原子力、また再生可能エネルギーのCN電力の電力を供給する拠点化にしていきたい、柏崎をその拠点としていきたいというのが私の考えでございます。

さて、別紙の方をご覧ください。私の原子力発電所並びに再生可能エネルギーなどに対する考え方をご説明申し上げます。この別紙、つまり2022年8月24日、つまり1年半ほど前に、一昨年出された国、政府からは、GX、グリーントランスフォーメーション、つまり、環境に配慮をしながらエネルギーを確保していくという国の方針が出されました。それに対して私がコメントしたものでございます。この報道発表は、今でもホームページに載っております、柏崎市ホームページにずっと掲載をしております。これから読み上げさせていただく部分が私の原子力並びに再生可能エネルギーに対する考え方、ほぼ全てでございますので、恐縮ですが、一つ一つ読み上げさせていただきます。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽7、6号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な

結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。

③ 稼働標準期間を40年から60年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当

④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。

⑤ 私自身は1~7号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には1号機~5号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5つ全てを廃炉してもらいたいということではない。

⑥ アメリカ合衆国においても、1立地点で3、4の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。

⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくるとは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考える。

⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の1立地点、柏崎市の市長として、この53年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。

例えば、50年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は26回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見るとき、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。

柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約81%が埋まっている。再稼働を目指している7号機のもは約97%、6号機のもは約92%埋まっている。

⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。

⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。

納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただければ、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

これが一昨年8月24日に出した私の考えでございます。○・×・△の方に戻ってください。ではなぜこのように考えるのかということ具体的に申し上げてまいります。まず、事実関係というところからご説明申し上げます。

原子力発電所の再稼働の意義があるというふうに私が考える理由の一つは、この福島事故における補償、廃炉、復興などに規定する関する経費が23兆4000億円かかるということでございます。このうち、東京電力は17兆円以上を東京電力が負担をします。残りの部分は国民に私を含めて、皆さんを含めて国民が負担することになっています。東京電力が17兆円を超える費用を捻出するには、本当に矛盾した話ですけれども、原発で事故を起こして、原発の後始末事故の後始末をするのに、原発を動かさないと、東京電力が成り立たなくなってしまうと、もっと具体的に申し上げます。

原子力発電所が1基動くと、1年間に1100億円の利益が上がると言われていました。そういった形、本当に矛盾した話ではありませんか。東京電力から自らの責任を果たしていただくためにも、再稼働が必要。本当に逆説的なものになっているかもしれませんが、意義があるということでございます。

次が世界日本の電源構成、裏の方をご覧ください。裏の方には、円グラフと横の帯グラフが書いてございます。帯グラフの方は、前の方にも少し大きく掲げますが、まず、円グラフの方からご説明を申し上げます。円グラフの方は、2022年度一昨年の日本の電力の供給源でございます。つまり、石炭による火力発電が27.8%、LNG液化線天然ガスによる発電が29.9%、石油が3%、その他火力が11%、合わせて足し算をしますと、約80%近くなるだろうと思っております。70%から80%と思えます。つまり、今、ここも電気がついていますが、電気使っていますけど、この電気の7割は、CO2をどんどんどんどん出して、火力発電で電気を作っているということです。今、日本は。世界はどうなんだろうということで、3年前のデータになりますが、同じです。多分これよりももっと上がっていると思うと思えますが、中国、アメリカ、インド、ロシア、日本になっています。2021年というのは、ロシアのウクライナ侵攻の前です。もちろん原発は柏崎刈羽も止まっています。そのとき日本は石炭によって、そして石油によって、天然ガス、合わせて足し算をしますと約70%ほどになるかと思えます。

そして先ほど申し上げましたように、2022年以降はもっと割合が上がっているだろうと思えます。そして世界と比べてみますと、中国よりもアメリカより火力発電による割合が大きいということです。一番大きいのは今ご覧いただいていますように、インドということになるわけでありまして、先進国と言われていたところでありまして、日本は中国よりも火力発電による割合が高いということでございます。そして、一昨年、昨年日本は地球温暖化に何も策を打たないということで、化石賞という不名誉な賞をいただいているところでございます。

ついでですから電気料金のこともお話しします。下の日本列島の地図があります。これは、東北電力、これは昨年のデータでございますが、多分この4月1日からまた上がります。電気料金上がります。しかし、東北電力と関西電力を比べていただくと、これ左側日本列島の方は、地図の方は家庭用の電気料金です。1ヶ月平均するという形でございます。2000円以上関西電力と開きがあります。なぜならば関西電力は原子力発電所を福井の原子力発電所を再稼働した。その結果電気料金が下がっています。東北電力は、原子力発電所を再稼働していません。右側の方の囲みを見てください。東北電力、東京電力、関西電力。右側の方の囲みは、これは産業用の電気料金でございます。同じように東北電力と関西電力と比べてみた場合、ご商売をやってらっしゃる方、商業用の、もしくは工業用の電力業務用の電気を使っている方はわかるだろうと思えますが、関西電力に比べても2割以上高い。電力を今私達は東北電力考えて使っているということでございます。

表に戻ってください。そして、原発福島事故そしてこの前の能登半島の事故、やっぱり心配じゃないかと。原発で事故が起こったら、みんななくなるんじゃないか、死んじゃった人いっぱいいるじゃないかと。そういうことをおっしゃる方もいらっしゃいますが、そうではありません。実は、ご覧いただいていますように、黄色いアンダーラインをしておりますが、これは国連の国際連合の科学委員会が2020年、2021年、つまり福島事故からずっと経過を、経過調査をしておりますけれども、何年かおきに発表しておりますけれども、2021年の直近の報告書の中で、福島県民の健康被害で事故による放射線被ばくに直接起因すると思われるものは記録されていない、と書かれております。そして、赤ちゃんの被ばく、甲状腺等に関しても予想されない、今後も予想されない。甲状腺がんの増加が見られそうにないということに、これは原発推進派のお医者さんでもなく、反対派のお医者さんでもなく、国

連の科学委員会の公平な科学的な医学的な見地に立った調査による報告書でございます。

その次に能登半島地震と、電気料金のことはさっき申し上げましたので飛ばします。能登半島地震が起こって先ほど冒頭申し上げたようにみんなご自宅住宅が潰れちゃって大変だったじゃない、というご心配です。今回の能登半島地震による死亡原因の多くは、確か圧死です。住宅が倒れてしまった、潰れてしまった、そこによる圧死です。東日本大震災による死亡原因の90、約93%は津波による溺死です。能登半島には志賀原子力発電所がありますし、柏崎刈羽原子力発電所もありますが、先般の1月1日の地震によって志賀原子力発電所も柏崎刈羽原子力発電所も大きな損傷はございませんでした。もちろん放射能漏れもないという形で。

なんで柏崎もあんなんなったら困るじゃないかと、屋内退避なんかできないじゃないかというご心配でございますが、石川の方には大変恐縮ですけれども、事実ですので申し上げますが、石川県における一般住宅の耐震化率は46%から64%です。私、石川県の志賀原子力発電所のPAZ、UPZ全部の自治体の耐震化率を調べ上げました。固有名詞を挙げるわけありませんけれども。翻って柏崎市は、耐震化率は89%です。今もう90%になったでしょう。お隣の長岡市も90%です。つまり、新潟県において、上越は87%です。

つまり、新潟県において、耐震化率は石川県に比べて、30ポイントから40ポイント高いということです、耐震化率は。道路も同様でございます。

それから能登半島地震で割れ残り断層が起こって、津波が来たら困るじゃないかと。今能登半島地震の割れ残り断層で津波は、約3mの津波が来るといふうに言われております。ちょっと前のスクリーンをご覧くださいと思うんですけども、今日は鏡が沖中学校の校区ですので、皆さんのご自宅にこのガイドブック自然災害編が配られていますけれども、私達が住んでいるところ、出てないじゃないかというふうなご連絡が1日、1月1日いくつか私のところに行きました。ガイドブック見ろ、って言われたけど、うちなんかこれに出てないぞ、ここに出ていないところは基本的には津波のことを心配しないでいいという皆さんが住んでいらっしゃる場所、心配しないでいいということでございます。これは新潟県のシミュレーションです。

今ほど申し上げましたように能登半島地震の割れ残り断層が動いて地震が起こったときに、約3mの津波が来るといふことが予測されています。このシミュレーションは、中央地区のシミュレーションですが、3mのさらに上を行く4.9mの基準水位の津波が来たとしても、この色がついているところ、色がついているところにとどまる。この辺は皆さんご承知のように、花火を見る会場でございますが、この辺で4.9mの基準水位の津波が来たとしても停まるという新潟県のシミュレーションでございます。

ご承知のように私の自宅もこの辺にありますけれども、西本町、東本町街中の方々もたくさんの方々が1月1日、避難をされました。しかし基本的には、このシミュレーションの中では、皆さんの地域はもちろんのことですけれども、津波の心配はない、というシミュレーションでございます。本当かと言われると100%そうかと言われると、いつも申し上げているところですけど、100%ということはありませんけれども、何をどういふふうに信じるかということになりますけれども、基本的にシミュレーションところでは、津波は心配しないでいいという形になります。

柏崎刈羽の原発を動かしても、どうせ電気は東京に送るわけだから、意味がねえじゃないかと。柏崎にリスクを負わせて、東京の人間がぬくぬくと生活して電気使って意味がないじゃないかということをよくおっしゃる方がいらっしゃいます。ある意味で正しいかもしれませんが、この9月、ここに書いてありますように今使っている電気、私達は東北電力の電気です。東北電力はこの9月に、東日本大震災で、町ごと壊滅的な打撃を受けた女川町にある、原子力発電所、女川原子力発電所が動きます。

そうしますと9月以降、柏崎にもその原子力発電所の電気の一部が流れてくることになりま

す。女川の原子力発電所は宮城県ですので、もう既に宮城県の知事と、女川の町長、石巻の市長の地元合意は終わっています。宮城県の方、女川の方、石巻の方から見れば、うちらがリスクを負うかもしれないのに、新潟の人間は、柏崎の人間はという論議も出てくるわけがあります。そういったことを含めても、この9月、原子力発電所の電気が流れてくる、そして多分期待としても、動き始めると、東北電力の電気料金も安くなることが期待されます。

一番最後のポツ、東京電力は、福島事故の反省を生かしながら、そしてこの柏崎刈羽の原子力発電所の再稼働に責任をしっかりと担うということの表明として、東電の原子力本部の300人を、柏崎に移転させます。300人が柏崎で進んで、暮らしながら、原子力発電所の再稼働に備え、200人は駅前のエネルギーホールに新しい本部ビルを建てます。そこで勤務をし、100名はサイト内で働くということでございます。当然のことながら、新しく社員寮も作られるということでございます。

○×の表がでございます。○・×・△の表、これは私が全部、全部私作った表ですけども、なぜか○の部分、エネルギーセキュリティ、安定性、先ほど申し上げましたように地球温暖化、CO2を出さないといって温暖化を防ぐというこの安全対策工事に今でも5000人から6000人の方々が働いていらっしゃる。そのうち54%が柏崎の方でいらっしゃいます。動き始めると13ヶ月にいったん、約2ヶ月間の定期点検が行われることになります。そこにおいても数千人の点検要員が必要となります。また、立地自治体にはご承知のように1万8000円皆さんのところも、1年にいったん、反対する方も賛成する方も、1万8912円が振り込まれているはず。いや、うちはいらん原発反対なんだから、こんなものいらんという方もいらっしゃるかもしれませんが、基本的には1万8912円が振り込まれているはずでございます。そういったことをまた自治体にも交付金が来て、固定資産税があり、財政的なメリットがあります。

また、石油、日本石油は柏崎を発祥としています。1888年以来、日本の高度経済成長を、石油、そして原子力という形で日本の経済を支えてきたという自負誇りがございます。これは見方によって違うという人もいらっしゃるわけです。

×の方です。福島事故が起きました。広島長崎の原子爆弾の被害のイメージがあります。先ほど私も申し上げましたように使用済み核燃料の最終処分バックエンドが未確定な部分があります。地震大国であります。新潟地震、中越地震、中越沖地震、能登半島地震、テロの標的となりうることもあります。冬場の悪天候、雪風といったものもあります。そして何よりも私にとってマイナスは、原発誘致、原発誘致以来1969年以来55年間、市を分断してきた。常に原発のことで議論してきた。選挙のたびに、再稼働する原発どうすんだと。他の問題もたくさんあるのに、常にそこだけが取り上げられ、市が二分されてきたっていうことは、私にとってみてもマイナスだというふうに思っております。以上私の方から原子力発電所に対する考え方、再稼働に対する考え方、また再生可能エネルギーを私がどう考えているかということを含めてお話を申し上げました。ちょうど30分過ぎましたので、皆さんの方からあとは皆さんの方からご質問、またご意見を賜りたいと思います。お願いします。

司会：はい、それではここからは参加者の皆様からご質問ご意見の方を承りたいというふうに思っております。1問ごとに市長の方からご回答をさせていただきます。ご発言いただく際には挙手をいただきましてスタッフがマイクをお持ちいたします。町名とお名前をおっしゃってからお話をくださいますようご協力の方よろしく願いいたします。それではご質問ご意見の方いかがでしょうか。はい、3列目の方。

質問者：すいません、本来は中央コミセンに行くべきだったんでしょうけど、夕方でしたので出ませんがここに伺っています、〈町名〉の〈名前〉と申します。よろしく願いいたします。

今回のいわゆる懇談会と称する市長のご意見、私らの意見交換、の広報が3月15日付で、各町内に配布されていたと思います。実際私のところは、来たかどうかははっきりわかりませんが、この時期に急いでやるっていうのは、やっぱり市長は再稼働を、言葉を借りれば容認する立場ですよ。そのために皆さん方から私の意見を聞いてください、私はこうですよという機会にしたいんだろうと思うんですが、最初に市長が言われたように、例年7月から8月ですよ。この3月の寒い時期にやる必要は私はないんじゃないかと。

市長：まず今日の時期でございますが、冒頭申し上げましたように、地域懇談会、今日の部分は原子力発電所の再稼働に関する地域懇談会でございます。通常の地域懇談会は今年もちゃんと7月に行います。

司会：はい、〈質問者〉様ご質問ありがとうございます。それ以外の方おられました。はい。前の2列目の一番端の方、はい。

質問者：市長さんおはようございます。私は〈町名〉から来ました〈名前〉といいます。市長さんは先ほど34年前に帰ってきて市会議員、政治の世界に入ったと言われていました。当時、市会議員になったときに、柏崎刈羽原発は7号機で終わりではなくて、8号機も作れと言った時期があったというふうに私は想起しています。それは間違えたかわかりませんが、

市長：間違いです。

質問者：ちょっと聞いてください。そういうことを私は聞いたことがありました。それで、市長は先ほども容認をしているということを言われました。原子力発電所については賛成と行ったこともない、反対と行ったこともない、容認だと。私政治家としての責任が発言じゃないかと思えます。政治の世界においては、白と黒しかないんじゃないですか。容認ということは、私は辞書で言ってみればこれは賛成なんですよ。広辞苑見れば賛成なんですよ。政治家として容認ということを言うのは、私は無責任じゃないかなと思えますが、その考えを変えていただくことはできませんでしょうか。

市長：はい、〈質問者〉さん、大変申し訳ありませんけれども、容認というのはもちろん賛成です。しかし推進とは違います。推進というのは推し進めるということです。ですから今説明していますように、推進というのはもっと推し進めるというのが正式です。

質問者：同じことじゃないですか。

市長：違います。それは広辞苑を見てください。推進と容認は全く意味が違います。

司会：はい、〈質問者〉様大変ありがとうございました。他の方おられますでしょうか。こちらのすいません、今マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：市長さん、どうもあの、丁寧な説明ありがとうございます。今までですね、反対賛成で完全に思考停止してやってるのはもうわかってますが、私はあの、課題ということで、これは過去稼働してきて、そして残っているその再稼働に反対賛成の前にですね、過去稼働し、蓄積した各廃棄物の所有状況、これ今87%と言われました。それから再稼働に向けて燃料プールの増設を考えているのか、それとも青森県むつ市がですね、引き取ってくれるのか。もっと言いますと、再稼働して100万kWの発電をしたら、何時間ぐらい、期間的にどのぐらいで、現在の廃棄核燃料プールは占有率何%になるのか、い

うようなことは我々知らなきゃいけないことだと思うんですね。
再稼働ということは、その核燃料の廃棄物の燃料プールが、むつが受け取ってくれないとか、そういう話があればですね、どんどんそういう廃棄物のプールが柏崎刈羽地内にできていく、とういうようなことを知っていかなくちゃいけない。これは再稼働という問題と、過去動かしてきた負の遺産、これらの整理ということで考えなくちゃいけないんだろうと思います。これらについては、国がしっかりと世界一の原発を持っているわけですから、それについて丁寧な説明があつてしかるべきだと。それは過去の稼働してきた負の遺産と、それから今後の話ということで、しっかりと見据えていただきたいということです。

市長：ご町内とお名前をお聞かせください。

質問者：〈町名〉です。はい。〈名前〉と申します。

市長：はい。ありがとうございます。今の使用済み核燃料の問題について、ですけれども、ちょっと後でちょっと資料探しますが、本当に大事な問題だろうと思っております。今、先ほど申し上げましたように、7号機の方は、今、目の前で動かそうとされているところは7号機でございますが、7号機の使用済み核燃料プールは今97%埋まっています。このまま再稼働すれば、1年、2年、多分2回のサイクルで、いっぱいになってしまう。それでは意味がないじゃないかということで私はもう何年も前からというか市長就任以来、核燃料サイクルを進めることが前提であると、具体的に申し上げるならば、再稼働までに概ね80%以下にしなければ困るということは東電社長にも申し上げている。
一昨日、この前、むつの方、青森県むつの方に一時貯蔵施設ができていますけれども、その稼働に対して、この今年の7月から9月、柏崎刈羽からの使用済み核燃料を受け入れると、いう計画が発表されました。それでもなおかつ、7号機の97を80%おおむね80%以下にするためには、今空いているサイト内のプール、多分4号機になるだろうと思います。4号機のプールの方に運び出すという形になります。そういう形で、全体の容量の81%といったものも、むつに運び込むことによって低減されますし、7号機、目の前の7号機の部分も、97からおおむね再稼働の前後に80%以下になるだろうと期待されるところでございます。

そして、この問題に関して、国が最終的にこの核燃料サイクルに対して責任を負う必要があるんじゃないかというふうな単純な御指摘でございますけれども、これは全くその通りでございます。先ほど申し上げましたように、最終的な核燃料サイクル、今回の物、施設は一時貯蔵施設でございます。

核燃料サイクルをするためには、六ヶ所村の再処理施設がしっかりと動かなきゃいけないわけです。ところが、六ヶ所村の再処理施設はさっき申し上げたように、26回の竣工延期を繰り返して、今できないわけです。いうことに対して、やはり国はしっかりと責任を負わなければいけないだろうというのは、〈質問者〉さんおっしゃった通り私もそう思います。

司会：はい、〈質問者〉さん大変ありがとうございました。1問1答でさせていただいております、多くの方からご発言いただきたいという趣旨でございます。お時間ございましたら改めてまたご発言をお願いできればというふうに思いますので、ご理解よろしく願いいたします。

他の方でよろしいでしょうか。今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。こういう機会を設けていただいてありがとうございます。言いたいところですけども、先ほど〈質問者〉さんがなぜこの時期ということを言われたことに回答されていない気がします。そのことでちょっと関連してですね、今日は参加できないので、ぜひ行ってほしいと近所のおばあちゃんに言われました。それは能登半島地震が起

きて、地震の被害の方が非常に大きかったわけですがけれども、志賀原発はどうだったのかということで、柏崎原発と関連して、原発の避難がとてできないので、不安だと。

1月1日に私も高台に逃げろ、高台に逃げろという放送があったので、高台になった近くのビルの高いところに逃げて、いろんなところに野田とか、それから鏡が沖中学校とかいろんなところに逃げられた方ありましたけれども、先ほど地図で示されました。ここは津波の被害では、避難しなくていいということの後で知ったという、そういう実態がと思うんですね。そのときに早く逃げてくださいという3.11の津波の映像が皆さんの中に蘇ったのではないかとということだと思っただけです。

なぜこの時期に今、原発の再稼働を求める、こういう説明会をする必要があるのか、これからこの私の意見ですがけれども、市長が説明された内容は、今後、何をしたいのかっていうのが、テーマがはっきりしないんですよ。この懇談会をやった後、どういうふうな手続きをもって。市議会では、再稼働の決議がなされました。

しかし多くの住民の、ここに参加されているのは極町内のわずかな方ですが、そういう方々以外の多くの住民の意見をどのようにして集約されていくのか、そういう手続きも含めて、市長の今後の方針、予定ということについて、お話いただければと思います。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。まず先ほど申し上げましたように、なぜこの時期に地域懇談会をするのかということに関しましては、原子力発電所の再稼働が法律の上で、12月27日に、要は、国から許可が下りたということですので、法律の上では、東京電力の原子力発電所7号機は、いつ動かしてもおかしくない、悪くない状況になっています。法律の上で。ただ、柏崎刈羽も含めて、一応地元合意といったものが前提となるというのが、日本においては慣例になっています。ですから先般、東京電力も法律の上では、GOが出ていますので、燃料装荷をしますと、いうふうな段階に来ているわけです。

そして今ほどご紹介いただきましたように、3月21日には市議会において、再稼働を巡る請願が採択されました。つまり、国、東京電力、法律に基づく再稼働するプロセスが進んでおります。柏崎市の考え方はこうですという考え方を表明しなければいけません。大事な要素として、市議会の議会において請願が採択されたということは、議会というのは市民の皆様のご代表であるというふうに私は認識しておりますので、市議会における請願の採択というのは大事な、一番大事な一つのピースであるというふうに表現したところでございます。

そういった意味で、原子力発電所の7号機の再稼働が、今プロセスが動き始めている以上、そして早晩、柏崎市長としての判断を求められる以上、この時期、プロセスがもう今始まっているわけですから、この時期に私の考え方はこうですと示していかなければなりません。しかし、またいろいろなお考えがあるでしょうからということで、議会の意思もわかりましたということで、私はまたいろいろな方々のご意見をお伺いしたいということで、今地域懇談会をさせていただいているところでございます。

手続きに関しましては今後のプロセスに関しましては今申し上げましたように、この地域懇談会が終わり、そして東京電力に出している要件いくつかありますけれども、先ほど申し上げたように、使用済みの核燃料を再稼働までにおおむね80%以下にしたいという、その方向性を東電がどういうふうに担保してくれるのかその返事を聞かせてもらいたいということ、それから国に対しては、知事と村長と私3者で、原子力発電所の被害に資する道路整備などを5つ要望していますけれども、その返事がまだ来ていません。

そういった返事を受けて、そして東京電力から、地元合意ということに対して打診があったならば、私は答えない答えなければいけないというふうに思っていますので、そういったプロセスが進んでいる中において、今日の地域懇談会、いろんな方々のご意見を伺いたいというものが、私の考え方であり、また今後のプロセスでございます。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他に、こちらの方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。今いろいろ市議会とかいろいろありましたけども、市長の市議会の選挙ですよね、市長の選挙のときもそうだし、市長は初め選挙に出られるときは再稼働を絶対しないって言って、2度目のときはそれは言わなかったけど、市議会も選挙のときは何も原発の話は何もしないで、それを市議会が決めること自体がおかしいし、それは余談です。

それと、まず言いたいのは、新規制基準が合格したから国は動かすと言っていますけどね、新規制基準というのは、昔の保安院がありましたよね。保安院が結局同じ穴のムジナだったことで、規制委員会になりました。しかし今も同じことで、新規制基準というのは規制委員会が決めるんです。それで、柏崎では中越沖地震がおって基準地震動を6倍に上げました。約6倍に。それ300ガルぐらいのが1800とかそういうガルになりました。それで、安全性がないから、原子炉の安全がないからフィルタベントをつけたわけなんですよ。だからそういう同じ穴の人が審査して規制委員会が合格したのっていうのは駄目なんですよ。それをもっとどんどん突き当てないと。東電は自分の都合の良い専門家、そういう人だけに。他の専門家はみんなそんなことないと言っている人はいっぱいいるわけですよ。それを鵜呑みにして、市長も鵜呑みにしているようでは駄目。避難が今問題になっています、避難以上に元の問題が嘘なんですよ。新規制基準だったらもっと、まず柏崎では、基準地震動がもう6倍になってフィルタベントつけて、それをごまかすためにフィルタベントを作ってフィルタベントなかったら原発は爆発しますから。それから杭問題、杭は上部の方に改良土入れたから、上部問題ない。下は何なんだろう、元々地盤が駄目だから、GSPでも調べると、ゆらゆらあっちもこっちもみんな年間狂っているわけなんですよ。それなのに、地盤も問題だし、杭もここは上は改良土入れたから駄目だけど、下地盤が悪いから下は割れなかったんでしょう。本来ならみんな同じ改良土と同じ岩盤の中に打ってなきゃ駄目なわけで、何も審査してないですよ。専門家はみんなこれ、ただ規制委員会が審査して合格しただけで本当の専門家の方はみんなそうじゃないと言っていますよ。放射能の件もそうですし、この間元規制委員会の話ありましたよね、放射能そんな怖くなかったら避難する必要もないし、福島だって何も除染する必要なんかないじゃないですか。問題ですよ。

司会：ご質問をまとめていただけますでしょうか。

質問者：資源の問題もありますが、資源は石油だと今、昔は石油は30年すればなくなるって言っていましたが、30年になってるかもって思っていますけど、ウランだって、石油なんてものすごく少ないんですよ。そのウランは再循環して初めて使われるようなんだけど、それができない状態だね、それもしかウランも少ない原料が外国が止めればもうそれで終わりなんですよ。

そういうことを考えると資源とかそういうもちろん二酸化炭素もありますけども、まず第1は、自然エネルギーになぜ取り組まないかっていうことなんです。原発があるから取り組まない。自然エネルギーあれば何も原発なんか必要ないんですよ。業務スーパーの社長がもうやるって言っていますから。

市長：今、拍手が出ましたけども、拍手が出たことからお答えしますけれども、私どもの方もご承知のように太陽光発電も含めて、先ほど申し上げましたように、洋上の風力発電を含めて取り組んでおります。国も取り組んでおります。しかし残念ながら、今の段階で、再生可能エネルギー、太陽光にしろ、風力発電にしろ、それだけで安定的に

質問者：国はやらせてないだけなんです。自然エネルギーで十分間に合うんだから。原発止めても大丈夫なんだから。原発あるから進まないんですよ。

市長：いやいや自然エネルギーだけで十分間に合うというならそれでいいのですが。今、私

が話す順番です。今進んでいます。今まではそうだったかもしれませんがそういう見方によって、それから新規制基準のことにしましては、〈質問者〉さん前からそういうふうにおっしゃっていますけれども、私は少なくとも国がやっていることは全く信じられないという立場ではありません。しっかりとした公平な科学的な審査基準があり、世界で最も厳しい審査基準がある。いうふうに私は考えております。あとは、大変恐縮ですがけれども、見解の違いです。再生可能エネルギーに関しては柏崎市も日本もしっかりやっているというところでございます。

しかし残念ながら今の段階では、それが追いついていない。安定的なものではない。これは事実でございます。

司会：〈質問者〉さん、大変失礼ですが次の方に移らさせていただきます。まだご発言をされてない方、挙手をお願いいたします。一番後ろの方、今マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉に住んでいる者です。私自身はまだ立場といたしますか。

司会：すいません、もう一度お名前お願いしてよろしいでしょうか。

質問者：〈名前〉です。名前まで言わなきゃいけないでしょうかね。柏崎に一生懸命頑張っている若い社員もいますし、福島で一生懸命廃炉作業、これは素晴らしい社員たちだと思っています。ただ、東京電力の東京に住んでいる、偉い方々ですね、それは信頼しております。そういう立場にいます。

今私の意見として一つだけ挙げたいのは、避難についてであります。どうせも動くんでしょから。避難についてです。能登半島地震の直後本当に不安でいっぱいな今自分なんですけど、この能登地震のときにも、柏崎バイパスも8号も3分後にはもう麻痺していました。私も逃げたんですが、麻痺しておりました、避難は不可能でした。ということは、避難所が必要ですが、自宅が無理なら、国も県も。県は今ちょっとね、花角知事偉いですよね、これから新しい避難のあり方を考えてほしいと言って花角知事は偉いと思います。

家が駄目なら近くのコンクリートの建物に避難する。一時避難というふうな言葉を使っておりましたが、中越地震、中越沖地震、私は二つともコンクリートの建物の中におりました。そのときにですね、学校というのは丈夫であるというふうに思われているんですが、コンクリートの建物の学校は、校舎の隙間から青空が見えていました、何箇所も。もう一つの中越沖地震のときには、隙間青空が見えただけではなく、学校自身が崩れそうで落ちそうになっていました。

原発事故が今起こっているかどうかという判断もできない中、被ばくは避けられない、特に逃げればいいのかという事でコンクリート以外はないと思うので、その避難所である建物の補強工事、窓がありますね、窓ガラスも割れるもちろん、戸が開かなくなると、出られなくなる。この辺の補強工事をぜひとも柏崎全体を行ってほしい。国の予算で。

それと道路整備も避難には大事なんですが、道路整備が例えばインターチェンジを作るとかいろいろ話し合われていますが、それが完成してから動かすべきではないか、というふうに思います。その完全な避難所ができない以上は、その花角知事の言われる新しい避難に対する考え方、これがまとまらないといけないという、その意見は本当に素晴らしい、大事なものだと思っています。これだけ子供が生まれない中、この子供たち、赤ちゃん、これらをどう守っていくのか、避難のあり方ってのはすごく大事だと思っています。

だから本当に細かく、ただ家が駄目だから、コンクリートの建物の避難所に行けばいいんだという多分、お偉い方々はそのように決めてくると思うんですが、それでは駄目なんじゃないかと、その現場にいた者としての意見です。避難所は危険であるという、コンクリートの建物も補強しない限り危険であるということ意見を意見として伝えたいと思います。

また住民投票があるかないかというのも、ちょっとお聞きしたいんで二つ目なのでやめておきます。以上です。想定外は必ずあります。

市長：はい。想定外は必ず私もそう思っております。先ほど申し上げた冒頭申し上げましたように、物事を何事にも 100%ない、というふうに私も思っております。花角知事がおっしゃっている新しい避難方法というのはどういうものかというのは、私は承知しておりませんし、いまだかつて1回も伺ったことはありません。

それから、コンクリート建屋の方ということでございますが、少し前の方にこれは田中俊一先生の講演の中のプリントでございますけれども、屋内退避、これは田中先生も強調されておりましたけれども、原子力発電所の事故が起こったとしても、すぐに放射性物質が飛散を始めるわけではありません。一定の時間があります。その間に、避難をしないでいいというふうに先生はおっしゃっているのではなくて、慌てて避難しなくてもいいというふうにおっしゃっているところでもあります。そういった意味で、病院、ここに書いてありますように、介護施設にいらっしゃるような方々に関しては、無理に急いで避難したのために、福島事故においては、多くの方々が、放射性物質で亡くなったのではなくて、無理なあまりにも急いだ避難をしたのために、こういった施設にいらした方々の犠牲が出てしまったんで、慌てた避難といったものは考えなくていいというふうなところでございます。

そういった意味で、道路整備だけじゃなくて、学校などコンクリート建屋に対する不安、穴があいているようなところはないと思いますが、もう1回ご心配ということであるならば、私どもの方の公共施設も調べます。また、原子力災害のときに、この辺はUPZ圏内になるわけでございますけれども、UPZ 圏内の方々は基本的に、即時避難は5キロ圏内・PAZ 圏内の方々でございます。

しかし、原子力災害のみならず、災害拠点として、避難所としての学校は重要なところでございますので、耐震補強も含めてされておりますけれども、念のため確認をするという作業をさせていただきたいというふうに考えております。

司会：はい。〈質問者〉様大変ありがとうございました。他にございますでしょうか。こちらの前の方、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉で市役所が立て替えられる前に、私はシェルターを作ってくれるようお願いしたんですけども、やっぱりウクライナでも原発が攻撃されたりするわけですから、また世界一の原発があるわけですし、なおかつ再稼働しようがしまいが、要は、使用済み核燃料がいっぱいあるわけだから、危険であるっていうことには変わりがないので、やっぱりシェルターを作ってほしいわけです。

そんな1万8000円配るんだったら、我々にも安定ヨウ素剤を配っておいてほしいですし、いざとなったら逃げられないかもしれないわけです。被ばくして亡くなった人はいないのは、やっぱり福島の人がみんな逃げたから、被ばくする人がなくて、被ばくで亡くなる人はいないわけです。結局逃げるしかないわけですけど、なおかつ地震や何かあるいは戦争で攻撃されたら逃げられないんですよ。そしたらやっぱり、シェルターを作るべきだと思うんですけど。そのために膨大なお金が柏崎にきていたわけですよ。何十年間に渡って。それが何に使われたかはわかりませんが、本当お金1万8000円もらってもしょうがないんで。それこそ韓国並みのシェルターを作るように運用すべきだと思います。それから、これは市長に言ったことです。もう一つ、課長にお願いしたいことがあるんですけどいいですか。

司会：後ほどでよろしいでしょうか？

市長：シェルターというご要望でございますけれども今回の3月議会においても共産党の持田議員から、シェルターを作れというようなお話も出ました。しかし現実的ではありません

よね。今、PAZ圏内でも約1万5000の方が住んでらっしゃいます。当然市民は全域ということを含めると、UPZ全員という形になりますと、7万7000人いらっしゃいます。そういったことを含めて、シェルターがあつたら、というお考えも、心配の気持ちはよくわかりますけれども、作るにしても、私も全く否定しているわけではありません。否定しているわけではありませんけれども、どこにまず必要なか、必要ではないのかといったことも含めて、考えなければいけない。共産党の持田議員がスイスにはあるじゃないかというふうにおっしゃったんで、スイスは原子力発電所を考えたシェルターではなくて、東西の冷戦時代にもしかしたら核戦争が起きるんじゃないかということを含めた核シェルターであるというふうには理解しているというふうにお答えを申し上げました。

それから、被ばくの問題は、逃げたから被爆者がいなくて、事態が進む中、数字が出なかったんじゃないかというご指摘でございますけれども、それは違ひまして、例えば、原発の中にとどまって、作業をされている方々、関係が企業の方々、福島第一の方々の中でも、死者はいらっしゃいません。

今の柏崎刈羽原子力発電所の柏崎の所長稲垣所長は、福島事故のときに、あそこにいらっしゃった1人です。そしてその後、事故後、15ヶ月も福島第一で、事故処理に当たった方です。今は柏崎刈羽の所長です。この前お電話し、お元気ですよ、元気です、と確認いたしました。所長からは、「今、サイト内には私以外にも多く、福島事故に係る10数ヶ月の処理に関わった人間が今、柏崎のサイト内で元気に働いています」ということをお聞かせいただきました。ということを含めて、採用され、作業に携わった方々を含めて、死者がいないということでございます。

司会：〈質問者〉さんすいません、まだ他の方も手を挙げられる方おりますので、改めてお願いできればというふうに思います。他の方、こちらの女性の方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。市長さんが20年以上前に、柏崎の将来を考えて政治家になろうという覚悟の1回いらっしゃったまもなくの頃、私達はブルサーマルの導入について市長さんと、じっくりと話し合いをしたことがあります。そのときから私の頭の中には、国策だから、国民だからという言葉が、それはその後多少変わられたこともありますが、それが頭の中にあります。

先般ですが、議会傍聴しました。それはもう毎日のように新聞で報道され、テレビで報道される柏崎の再稼働について、できるだけ私も毎日見ておりましたけれども、議会では、賛成の方のご意見、それから反対の方のご意見、議員さんの、じっくりと聞かせていただきましたけれども、20年前に柏崎にいらっしゃったときから積み重ねられて、先ほど市長さんがここに発表してくださいました。内容には及ばないところもあったと思いますが、市長さんのこの中にも、私ども再稼働反対しておりますが、納得できないところもありますけれども、今、くどくど申し上げるつもりはありません。

ただ先ほど、私の列の向こうの方がおっしゃったようにですよ、いろいろとこうやっても差し迫って再稼働、稲垣さんがもう燃料を入れた、入れると言われるような段階にきても、再稼働することについてスタートしていると思うんです、国を挙げて。そういう中で、一般市民の安心安全を守るのは市長さんのお務めだと思うんです。

そしてそのことは全部もう考えられているということはわかりますけれども、こういう懇談会もその一つではないかと思えます。これは良い意味においても、やるやらないについても、何か足がかりになると思えますので。

そこでですね、市民はまだたくさんいます。ここに来られない人もいっぱいいます。ご意見を持っていても来られない人もいます。そして私が心配しているのは、再稼働に賛成な議員の方や、再稼働に賛成、櫻井市長さんはよくやっていると言っている方々の中でも、やはり再稼働について怖いという意見が、簡単に言ひまして、巷にあります。

私みたいな、もう明日がわからんような人間にそんなことを話しかけてくる市民がたくさんおります。ですから、何とか多くの市民の障害者も病院も子供も、若い者も年寄りもみんなひっくるめた大多数の市民の意見を、何とか市長さんは、求めていただきたいと思うんです。それは大集会を開く、でも行けない人もいるだろう、だからそこで委任状を出すとか、まだいろいろアンケートとかあると思うんですけど。

何とか一つやっぱり市民の安全と安心命を守るという市長さんの立場から、それを検討していただきたいというのが私の願いです。以上

市長：はい、ありがとうございます。確かに〈質問者〉さんと 1997 年ですよ。今からだから、27 年前ですか。だから、プルサーマルの問題そのときは、私は議員であったわけですけれども、お互い激しく、一生懸命、議論させていただいたことを思い出しております。そのとき〈質問者〉さんたちは、今の意見の集約ということで、住民投票を求められるというふうな話があったわけですけども、私はそのときも原発は国の問題である、柏崎の問題でもあるけれども、新潟県の問題でもあるけれども、国の問題でもあるんで、原子力政策、エネルギー政策というのはやるんだならば、私は国民投票だとその当時から申し上げていました。その上で、国民が原子力はノーだと、言うならば、私は柏崎刈羽も含めて、それはそうだろうと思います。

実際にスウェーデンでは実際やったわけですよ、スウェーデンは国民投票で。原発反対になりました。一旦止まりました。しかしその後、ご承知の通り、今動いています。やっぱり駄目だったと。原発がないと駄目だったと。国民投票をやって、止めたんですけど、やっぱり駄目だったということで今動いています。

ということを含めて、実際に今、国民投票ではありませんけども、これはご覧いただければわかると思いますが、今から 4 年前、ウクライナの前です。スクリーンをご覧ください。ウクライナ情勢前です。

アトランダムに市民の皆様にはアンケート調査を行いました。これは統計学上正しい調査です。公平な調査です。柏崎刈羽原子力発電所 1 号機から 7 号機までは今後どうあるべきだとあなたは思いますか？全号機の再稼働が必要 6.1%、できる限り減らしていくが、限定的な再稼働が必要 29.2%、徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にする 39.4%、全号機廃炉にするべき 19.2%。これは 4 年前の 2 月の調査でございます。2 月、3 月の調査でございます。

このとき、この徐々に減らしていき、将来は全て廃炉にするという 39.4 という数字を、どちらに考えるかと。つまり、徐々に減らしていき、廃炉するんだというふうに解釈されました。私どもはそうではなくて、まず一つ二つ動かす、そして徐々に動かさない、廃炉していくものを増やして行って、最終的には廃炉するというふうに文脈を設定したところでございます。

そうしますと、廃炉という言葉、将来的も含めて廃炉ということを選択された方は確かに 39+19 ですので 58%になります。将来的な廃炉をしかし、今、再稼働するという必要があるという方は、足しますと、約 7 割になります。

この選択肢 3 がちょっと両方にも解釈できるから、曖昧じゃないかというご意見が出ましたので、設問を変えて別の機会に、こういった聞き方をしました。市では平成 30 年、2018 年に柏崎市地域エネルギービジョンを策定し、限定的、基数、期間限定的な原子力発電所の利活用、利活用、風力、太陽光、蓄電池水槽などの再生可能エネルギーの産業化による、カーボンフリーの脱炭素のまちづくりを進めています。実際に進めています。先ほど再生可能エネルギーやってないじゃないかというご意見もありましたけれども、実際に昨年北条の西長鳥、鯨波に太陽光発電を、柏崎市は動かしています。

このことについてどう思いますか、限定的な基数、期間、限定的な原子力発電所の利活用と再生可能エネルギーの推進、大いに賛成おおむね賛成が 71.5 であります。この 71.5 という数字は、先ほど見ていただいた。こちらの選択肢 1、選択 2、選択肢 3 を足した数字とほぼ同等の数字であります。

そういうことで、市民の皆様は確かに心配もあるけれども、限定的な原子力発電所を利活用と、太陽光を始めとした風力、蓄電池などする水素を含めた、こういった脱炭素エネルギー産業には賛成をされていると、概ね賛成を含めて 71%の方々が賛成されているというふうに私どもは皆さんのご意向を考えております。

これはウクライナの事故の前です。その後、全国の新聞などが世論調査をしました。世論調査をした結果、原子力発電所の再稼働を認める立場の方が過半数を占めています。どの新聞もです。しかし、先般、能登半島地震が起こって、その後の世論調査を見ると、過半数割れをした新聞もございます。以上でございます。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。まだご発言をされてない方である方おられますでしょうか。その一番奥の方。

質問者：ありがとうございます、〈町名〉の〈名前〉といいます。原発の再稼働には反対なのですが、反対、反対とばかり言ってもどうしようもないなと思って、今日は説明を聞きに行きました。頭悪いのでよくわからない部分もいっぱいありますが、でもやっぱり必要なものは必要なのだということもよくわかるのですが、どうして反対かという、やっぱり電気もたくさんあった方がいいし生活も豊かな方がいいのですが、やはり健康じゃないと、その人間はやっぱり健康で生きられないと、その他のものはやっぱりその二の次だと思うんですよね。

1月1日に地震が来たときに私は思いました。誰も1月1日の夕方、みんなが楽しく過ごしているときに地震が来るなんて夢にも思わなかった。それなのに、地震が起きた。本当に想定外のことはこれからも起こってくる、地震ではなくても、本当にこんなことが起きるんだなということも世界中では起きていますし、私達にもそれが可能だと思うんですよ。

だからそうしたときに、リスクというものが原発にあるために、その元気で生きられないというところに、一番私たちは命というところに関わってくる問題なので、私はやはりそこが大変不安なんです、想定外のことがあっても私達の命とか健康というのは守れるのでしょうか？

市長：今日も、この会場でも何度も申し上げましたけども、想定外というのは私もありうるというふうに思っています。何事も 100%というのはいり得ないというふうに思っています。さてそういった中で健康が第1だと、命は大事だと。もちろん私もそう思っています。そう思っています。

しかし現実として、先ほど冒頭申し上げましたように、私達は電気がなければ暮らしていけないというところでもあります。その電気をどうやって作るのかということに関しては、日本は残念ながら、太陽光や風力や、地熱、といった部分では、日本の私達の生活を支えるだけの安定的な電力は作ることができていない、というところがございます。ドイツ原発やめたじゃないか、ドイツは原発やめました。去年 11 月に行きました。何で作っているか電気を石炭です。火力発電です。今、圧倒的に風力発電でも作っていますけれども、ドイツは今、圧倒的に今現在、石炭です。

日本も先ほど申し上げたように、70%は火力発電所でありまして、そして地球温暖化といったもののリスクもあるわけです。皆さんご承知のように、昨年の夏は 38 度でした。柏崎、雨がほとんど降りませんでした。昔は私も 60 過ぎてもう来月 62 ですが、夏 38 度だってことはなかったです。昔はせいぜい 30 度でしたよ。夏この地球温暖化によるリスク、地球温暖化で、豪雨、線状降水帯なんていう言葉は聞くことできませんでした。一気に降って、一気に何十人もの方々が、その豪雨災害で亡くなっています。これも大きなリスクです。

それから先ほど申し上げましたように、東日本大震災は大きな震災ではありましたが、原子力災害による直接的な放射線被ばくによる死はない。避難における関連死といったもの

が大半であるという部分です。そして東日本大震災の大きな死因、93%の死因は、繰り返しになりますけれども、津波による溺死であります。

確かに何も無い、リスクも何も無い生活を私達が求められるところでありましてけれども、実際には、何をやるにしても、どこかにリスクがあるということです。そのリスクをできる限り小さいものにしようというのが私達の多分知恵なんだろうというふうに思っております。

司会：はい、〈質問者〉様大変ありがとうございました。ご発言されてない方、一番奥の左の方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。私はいろいろ東京電力に対していろいろ諸問題がいろいろ出てきて、聞いて言いましたけど、東京電力自体が管理能力はないと思っているのです。これだけいろいろ問題が出ているという。あと従業員の教育とか、そういうのがしっかりなさっているのか、国民の命を守らなきゃ駄目なのに、しっかりそういうものが行き届いているのか、すごく不安に思う。

それとですね、これ再稼働ありきということで、今やっているんですけど、今ここに来て残念ながらわかったんですけど、法的に決まっているから、そのように進んでいいんですよ。法的に決まって国が認めましたということは、何かあった場合に責任を国が負うことできるんですね。認めたということは、何かあった場合、全部責任を国がもう保証できるということですよ。もし、もし、北朝鮮なり、韓国の方からミサイルが落ちてきたらどうするんですか。そういうこともあり得るんですよ。は原発はすぐ再稼働してもいいと思うけど、なるべく早くそのような方向から脱却してもらいたいというそう思っているんですけど。どうしますか、ミサイル落ちてきたら国が対処できますか。不安ですよ。

市長：はい、ありがとうございました。まず東京電力の部分に関しましては、私も先ほど冒頭申し上げましたように、4年前選挙が終わって、再稼働の意義を認めるというふうに申し上げて当選をさせていただいて、さあ行こう、と思ったら翌月、IDカードの不正利用から始まり、いろんなことが出てきて、ここまでになっているわけですので、この点に関しましては、何度も何度も東京電力に対して、その管理能力、そして社員を1人1人また関連企業等の資質等に関しても申し上げてきたところでございます。

そしてそういったことを含めて、原子力規制委員会の方がまさに国が、（東電には）能力がある、しっかりと整備されているということが認められたというのが、先ほど申し上げた、昨年12月27日、法的には認められたというところでございます。

さて、いざというときに、北朝鮮からミサイルまで突っ込まれたらどうするんだと。認めたということは国が全部責任を持つということだということだろうと思いますけれども、もちろんそれは国にしか、責任ある国でなければ責任を負うことができないと思っています。

花角氏も新潟県知事ですから私は知事に申し上げているんですけども、国の原子力規制委員会がGOと審査をして、GOといったものを知事は、もう一度県の技術委員会で確認するとおっしゃっていますけれども、今お話されたように〈質問者〉さんお話されたように、県が確認するということは、県にも責任が生じますよ、それは県は、残念ながら、いざというとき責任を負えないので、国でしか、国しか責任を負うことができないはずなんです。ですから今回の東日本大震災も、東京電力と国が責任を負って、その賠償等を果たそうとしているわけです。しかし、国、国と言いますけれども、国のお金は私も皆さん含めて、私達の税金から成り立っているわけで、いうことを含めて、でございます。

それから、ミサイルが飛んできたらどうすんだってことなんですけれども、まずは柏崎刈羽原子力発電所にミサイルを飛ばすことはないと思います。なぜならば、向かって飛ばした瞬間、その飛ばした国は、一気に反撃されますので、ある意味、可能性はもちろんあります。可能性はありますけれども、そういった選択をしてしまったとするならば、その国そのものが全て

なくなってしまう事態になります。さすがにそういった国はありえないというふうに私は考えております。

司会：〈質問者〉さん大変ありがとうございました。終了時間がちょっと近づいてきておりますので、最後の質問とさせていただきたいと思っております。まだご発言をされてない方だけ手を挙げていただいてもよろしいでしょうか。そちらの方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。いろいろなお話を聞かせていただきました。市長さんの説明もありがとうございました。だけど、やはりこの危険だという意見、危険だと思うこの市民の心情ですね、こちらはとても私達、先ほどからも出ていますが、不安です。何より、地域経済が発展する、活性化になるより、1人1人の命が大事だということを痛感しております。

その中で、3月7日の柏崎日報の市会議員の議論の中で、ちょっと抜粋して読ませてもらいますが、佐藤さんという市議員の方が、東京電力柏崎刈羽原発の再稼働にはまだまだ多くの問題がある。それらを放置したまま、エネルギー危機と乗じて再稼働を推進することについて、多くの市民は不安を感じている。私これ同感なんです、その後に市長さんはこういうふうに述べられておりました。柏崎刈羽原発の再稼働に関して多くの市民が、危険だとは思っていないというふうに述べられた記事が載っていましたが、その辺、周りの長岡市長、それから燕の市長、上越の市長、最近の新聞報道を見ていると、住民の中の不安に寄り添う心、そこら辺をもう少し対応していただきたいというのが私達の気持ちでして、柏崎の地元の櫻井市長さんはこういうふうに多くの市民が危険だと思っていないというあたり、どういうふうにお考えなのか、今日はお聞きしたくてまいりました。

市長：ありがとうございました。私の言い方が間違っていたのかどうかわかりませんが、私は多くの市民の方々が、原子力発電所の再稼働に関しては、認める立場でいらっしゃる、ということをおっしゃっているところでございます。

先ほど申し上げましたように、議会請願においても、今議会、定員22、議長を除くと21人の議員さんが採決をしたわけでございますけれども、原子力発電所の再稼働を巡る請願に関しましては、16対5名で、16対5で可決されたわけでありまして、

当然16名の議員さんの支持をしていらっしゃる市民の方がいらっしゃいます。そして原子力発電所の危険性も、そしてまた有益性も、プラスもマイナスも含めて、この請願に賛成された方々が16名いらっしゃるということをもって、私は今ほど申し上げたように、多くの方々が心の底から賛成かと言われればそうではないかもしれませんが、仕方ないかと、そういう方も含めて、再稼働を認める立場の方々が16人議員さんにいらっしゃったということをもって、市民の皆様は、そういった議員さんを支持されているということをおっしゃったところでございます。

司会：はい、〈質問者〉様大変ありがとうございました。大変申し訳ございません、まだまだご意見ご質問等があると思っておりますが、時間になりましたので、この辺で終了とさせていただきます。すいません、恐縮でございます。市長の手紙等もございまして、そちらの方に書いていただければというふうに思っております。限られた時間で大変恐縮でございましたが、たくさんのご意見ご質問いただきまして大変ありがとうございました。

以上をもちまして柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。長時間お付き合いいただきまして大変ありがとうございました。

市長：どうもありがとうございました。